

教頭の小部屋



2020.12.10
その2

あいさつの力(生徒会のあいさつ運動で思い出した話です。)

本校校長は、自転車に興味だそうですが、私は全く自転車に興味がありません。でも十数年前「うん！痩せよう！」と、ダイエットのために、自転車で通勤していましたが、家を出るときは、朝の爽やかな空気の中、爽快な気分を味わえるのですが、途中からへとへとなり「明日は車」と…。また、1日仕事をして疲れて家に帰るときに、「も、もう…。明日から車。」と、毎日後悔していました。数か月経ち「さて、自転車通勤の結果は？」と体重計に乗ってみると、まったく成果が出ておらず「世の中間違ってる！」と腹の中でどす黒い憎悪の炎が渦巻きました。それ以来自転車通勤をやめてしまいました。何事も形から入る私は、そこそこいい自転車を買ったので、ほこりが積もった自転車を見て、配偶者に「意志が弱いわね。」と意地悪に笑われたものです。そんな意志が弱い私が、数か月も自転車通勤を続けられたのは、「ダイエットに成功した自分を、みんなに見せつけてやるんだ！」という邪な理由ではなく、ある理由があったからなのです。

なんて意志が弱いの



朝、自転車通勤をしていると、集団登校している小学生とすれ違うのです。初めてすれ違ったときは、お互いに無言だったのですが、次の日、小学生たちが「おはようございます！」と挨拶してくれました。まさか**見ず知らずの私**に挨拶をしてくれるなんて思いもよらず、挨拶を返すことができませんでした。その翌日、やっぱりすれ違う時に小学生が「おはようございます！」と、私も「おはようございます。」と挨拶を交わしました。この時、私と小学生は**顔見知りになった**のです。また次の日、「よし、今日は先に挨拶してやろう。」と思い、先に「おはようございます！」と大きな声であいさつをすると、小学生たちの顔がパッと笑顔になったのです。この日から私は、小学生たちを見守る**地域のオッチャンになった**のです。毎朝の挨拶が日課になり、苦しいながらも自転車通勤を続けることになったのです。

お願い！

毎朝のあいさつは気持ちよかったんだけど、成果が出なかったんだ。ごめんよ、小学生の君たち…



保護者の方や地域の方と話をしていると「中学生は背も高いし体も大きいから、声をかけるのが怖い。」という話をよく聞きます。中学生は思春期という不安定な時間を過ごしているので、親や大人に反抗することももちろんあります。幼い考え方で、間違っただけの行動をとることももちろんあります。体は大きくても、まだまだ中学生です。狭間中には心根の優しく素直な子がたくさんいます。学校行事でうれし涙や悔し涙を流す子もいます。部活動に一生懸命取り組む子もたくさんいます。キラキラと輝く子どもたちです。子どもたちは大人へと成長するために、子どもの自分から脱皮しようともがいているのです。その大人になろうとしている中学生には、多くの大人とのかかわりが必要だと思っています。「たくさんの大人に見守られている。」という実感を力に変えて、素晴らしい大人に成長してくれると思います。

あいさつの力で、私が『地域のオッチャン』となったように、子どもたちを見守る地域の方が、一人でも多くなってほしいと思います。本来生徒から挨拶ができたらいのですが、今は「知らない人に声をかけたらだめ。」と教えないといけない時代です。もちろん地域の方に挨拶をするよう指導を続けていきますが、なかなか生徒にとってはハードルが高いようです。厚かましいお願いですが、ぜひ「おはよう」「おかえり」と声をかけてあげてください。